

牛マイコプラズマ乳房炎に注意しましょう！

今年度、県内の酪農場で牛マイコプラズマ乳房炎の発生が確認されています。本病は、感染力が強く、発症牛の治療が難しい乳房炎です。特に、預託や導入など牛の出入が多い農場では侵入防止に注意が必要です。

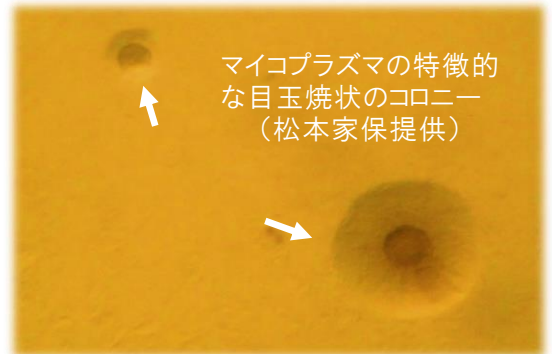
● マイコプラズマとは？

- ・細菌の一種、発育が遅く、通常の細菌培養では検出不可
- ・限られた抗菌薬しか効果がない
- ・感染力が強く、乳房炎以外にも様々な病気の原因となる
→特に子牛では呼吸器病、中耳炎、関節炎などの原因となる



● 牛マイコプラズマ乳房炎の特徴

- ・他の乳房炎に比べ伝染力が極めて高い
- ・症状は、無症状から泌乳停止まで様々
- ・乳房炎軟膏では治癒しない乳房炎が多発
- ・乳汁の細菌検査で検出されない



● 感染源

- ・肺炎牛の鼻汁、分娩牛の悪露
- ・搾乳時に作業者の手指や搾乳機械を介し伝播
- ・マイコプラズマを保菌した初産牛や感染牛の導入

● 対策

感染牛の早期発見ならびに淘汰による蔓延防止が主な対策です。

- ・バルク乳のスクリーニング検査にて保菌牛がないか定期的に検査
- ・導入牛や初妊牛の事前検査
- ・陽性牛は隔離治療、又は感染拡大を防止するため淘汰を考慮
(症状の有無、重症度、妊娠の有無などで治療するか判断)

バルク乳細菌スクリーニング検査(令和3年度第2回)を実施します！

- ・本検査は牛群の乳房炎原因菌の種類、搾乳衛生の状況、牛マイコプラズマ乳房炎や牛ウイルス性下痢ウイルス(BVD)持続感染牛の有無を確認するものです。
- ・11月中に各農場を巡回して採取しますのでご理解と御協力をお願いします。

※ヤツレン管内の農場については、独自にバルク乳細菌検査を定期的実施しているため、BVD検査を実施する予定です。

